

「坂の上の道普請」 白南風町内会長協議

「せめて、斜面地に軽トラが入る道が欲しい」

そんな思いで白南風町の住民等 32 名が声をあげました。

12 月 14 日（木）には地元住民 3 名と佐世保市道路関連部局職員が意見交換を行いました。

その結果、下記の期日および場所においてこの道普請を地域住民、行政、町内会との協議を行い、
着実な道づくりを行う動きとなりました。

今後、楽観はできませんが、住民主体の坂の上の道普請を行って、安心安全の生活環境づくりが目指しましょう。

12 月 21 日（木）10 時から

白南風町公民館

佐世保市道路関連部局との協議

12 月 14 日（木）10 時 30 分から地元住民と佐世保市土木管理課職員 2 名と道路維持課職員 1 名が白南風町 36 番 10 号の旧指山博義邸 2 階で道づくりの協議が行われました。あか道（里道）の旧農道と青線の水路に関することでした。現状は移動条件が不備であり、住民による自主的改良の現場確認もありました。

この協議で合意されたことは 2 点でした。1 つは行政の取り組みとしておおむね 5 年後までには車両移動条件のある道路を整備すること。これについては事業費負担が行政 70%、住民 30%が前提だということです。もう 1 つは緊急上の道路維持の観点から道路水路の整備を現行予算の範囲で行い、住民主体の整備においては行政で技術指導等を行うというものでした。

これで 5 年を待たなくても、当面、軽自動車は通行可能なエリアになるということになります。

本部旧指山博義邸庭園復旧

第 12 号でお知らせいたしました「本部で『崖くずれ』」が復旧いたしました。9 月 13 日、14 日の線状降水帯等による集中豪雨によるものでした。崩落した崖の石等を事業者をお願いして取り除き、鉄筋をいれセメントを流し込むことで庭園の基礎をつくりました。同時に、通行できる道路が確保できました。10 月下旬のことです。周辺住民をはじめとする皆様にはご迷惑とご不便をおかけいたしました。私たちの生活が坂の上での暮らしということもあり、突発的な事故や災害は避けられないともいえるようです。支え合いの関係はどうしても必要なことだとあらためて感じております。

地域住民主体の地域づくり

「道づくり」の基本は地域住民ファーストで、その第一線に地域住民がいることではないでしょうか。研究会メンバーからそんな声があがり、そのための活動が始まっています。具体的にはチラシを配布し、住民や坂の上で工事をしている業者さんに声をかけました。39 人の賛同を得ました。現在、有志が軽トラが通れる道整備に立ち上がっています。九電や NTT に掛け合って道路からの不要電柱移設をお願いしています。本研究会はそれらの活動を支援いたします。「軽トラが入る道づくり」はそんな事業です。本紙冒頭に書いているように、白南風町町内会長にも行政サイドの仲介で進められることになりました。

斜面地の観光地化？

「坂道、脇道、佐世保道」に観光客をエスコートする。白南風町や峰坂町の路地を歩くことを観光にし始めています。佐世保市の外郭団体の佐世保観光コンベンション協会の事業です。居住者の生活ぶりや人通りが少なくなった斜面地を観光として売り出しているものです。もっとその観光戦略の意義と正当性を地域住民に理解させることが必要でしょう。現状ではそのような動きは見られておりません。坂の上の暮らしをしている住民は「もの珍しい原住民（アパッチ）」ではありません。斜面地居住への企画者の偏見を感じるのが正直なところではあります。